

櫻だより



氷見市立北部中学校
校長室から
令和5年10月21日

「ずらす」

「笑いは常識をずらすこと」

目からウロコでしたね。常識から非常識にずらすことで笑いが生まれること。そして、視点をずらして見ることで、氷見の魅力が見えてくること。吉田サラダさんの講演で、生徒だけでなく教職員も「なるほど!」と思ったのでは? たくさんの笑いととも、多くの学びがあった講演会だったように思います。

以下、生徒の感想から

今日の講演で心に残ったことは、笑いの力はすごいということ。吉田サラダさんの講演の中には、笑いがあふれていて、とても明るい気持ちになった。

今まで氷見にずっと住んできて当たり前だと思っていたことも、ずらして見ることで、氷見にはたくさんの素晴らしい物があることがわかった。これから「ずらし」を活用するために、まず学校生活で常識を身に付け、楽しむ努力をして、新しい発見をしていきたい。

この講演会のおかげで、これまでよりもっと氷見を好きになり、大切にしようと思った。吉田サラダさんが言われたように、ずらして考え、より素敵な氷見の魅力に気付いていきたい。

私はいつも通りに学校に来て、友達と普通に話して、部活して帰って寝るという日々がとてもつまらないと思っていた。だけど、吉田さんの講演を聴いて私の心は一瞬で明るくなった。これからの人生を自分らしく「ずらした」生活をしていきたい。日々の時間にイレギュラーなことをちょっと取り入れ、楽しく毎日を過ごしていきたい。

氷見市の食べ物や景色を褒められて、氷見市民の私はとてもうれしくなった。改めて、氷見は素晴らしい場所だと実感した。人を元気にして、魅力を発信する吉田サラダさんの仕事が素敵だなと感じた。

また、今回、合唱コンクールを学校から南へ約2kmずらした会場で行ってみた。新しいホール、大きなステージ、きれいな音の響き、奥行きと高さが感じられる客席。学校の体育館では味わえないハーモニーの心地よさが感じられた。会場をずらしたことで、これまでとは違う感動や学びがあった。

「ずらす」ことで新しい発見が生まれる。学校の常識は社会の非常識といわれることもある。これまでの学校の視点をずらし、いろいろな見方・考え方を行っていくことが必要と思う。まずは、自分自身の見方が固まっていないか、振り返ってみることが大切ですね。その上で、日常にちょっとした「ずらし」を入れていくことからやってみましょう。

